

淋菌性急性尿道炎にたいする Amoxycillin の治療効果について

江 本 侃 一
 浜の町病院泌尿器科
 占 部 慎 二
 占部医院

I はじめに

淋菌が各種の抗生剤に感受性をよく示していることは周知のことであるが、その投与量および投与期間について一発大量療法、短期療法などが1つの目標にされている。しかし他方、より少ない量で所期の効果をあげようと努力も試みつつある。

われわれは藤沢薬品から、英国ビーチャム社研究所により開発された経口用ペニシリンで、Ampicillin と類似の構造を有する Amoxycillin の提供をうけ、外来淋菌性尿道炎についてその治療効果を検討してみた。

本剤は Ampicillin と同じく広い抗菌スペクトルを持つものであるが、Ampicillin より優れた吸収性を示し、Ampicillin と同量の内服で2倍の血中濃度が得られるのが特徴とされている^{1), 2), 3)}。また MIC は淋菌に対して 0.01 mcg/ml の値を得ている¹⁾。

II 投与量ならびに臨床検査

投与量：1日 1.5g 食間3分服
 1日 1.0g 4回分服(朝, 昼, 夕, 就床前)
 1日 0.75g 食間3分服
 1日 0.5g 4回分服(朝, 昼, 夕, 就床前)

本剤の1カプセルは250mgと125mgの Amoxycillin を含む。量的効果をみるために4種の投与量を試みた。1.5g/日の投与例は3例、1.0g/日は7例、0.75g/日は12例、0.5g/日は5例であった。

検査法：外尿道口の観察、これによる尿道分泌物の塗抹染色を行なった。塗抹標本の検索により淋菌を確認したものに限り臨床実験を行なった。淋菌の同定はもちろん培養によるべきであるが、浜の町病院の例は培養可能であるが、他医院に依頼した場合は培養不成功に終わることが多いので一律にグラム染色で確認した。

効果判定は外尿道口の所見、尿道痛の自覚症状を参考にして、尿中膿汁、淋菌の早期に消失したものを著効、淋菌は消失したが、膿汁が残存して1~10/F(×400)のものを有効として、その他は無効とした。

III 臨床成績

全例27例で、いずれも男子の急性症状を呈した淋菌性尿道炎であった。

本剤投与は3~7日が多く、ごく少数例に9日間投与した例もあつた。

治療効果は表に示すとおりで、1.5g/日の投与では著効、有効、無効各1例であつた。淋菌の消失は全例とも早期にみられるが、膿汁の改善はこれより2~3日遅れてくるのは当然であるが、初診時から卅→+という傾向にならないと効果があると思えない。

1.5g/日の症例(No.3)で、2日投与後放置して6日目に再発をみて来院し、再投与に症状の改善を示したものがあつた。1.5g/日の投与量でも短時日の治療には注意を要すると言える。

つぎに1.0g/日群は7例中著効3例、有効3例、無効1例であつた。この群には再発例が2例含まれているが、この期間観察では治癒したといえる。前立腺炎の合併所見はなかつた。

つぎに0.75g/日群は12例で、著効4例、有効5例、無効3例となつている。長期間の再発例も含まれているが、11日間の経過では再発を認めていない。この群の例でもわかるように、いずれも淋菌の消失は早期に認められるが、無効例で膿汁の改善が乏しい感じをうけた。

最後に0.5g/日群は5例の少数に留まつたが、著効1例、有効2例、無効2例の結果で、0.5g/日の投与量ではやや効果が劣るようにかがえた。

全例とも本剤投与による副作用はみられなかつた。

IV 考案およびまとめ

Amoxycillin の淋菌に対する効果は MIC の成績からみて良好な結果を得ることは当然であろう。従来のペニシリン系列薬剤でも有効なことは、新しい抗生剤の治療研究会でしばしば指摘されているところである。しかも ABPC 剤の1.0g/日ないし2.0g/日投与は PC G 製剤の効果とたいした差がないか、あるいはむしろ前者のほうが劣ることさえあると報じられている。今回われわれが試みた Amoxycillin 製剤は急速に吸収されて、血中濃度を高め、食事によつて影響されないとされている⁴⁾。したがつて淋疾に対する治療効果は1.0g/日以下の投与量でも充分にあげうるはずと考えて、あえて0.75g/日さらに0.5g/日と減量してみた。自験例の成

Table 1 Results of amoxycillin treatment in gonorrhoeal acute urethritis

No.	Name & age (yrs)	Sex	Infected day (before)	Dosage (g × day)	Course	Subjective symptom			Urinary findings			Efficacy	Remarks
						miction pain	pus discharge	pus	pus coccus	epithelium			
1	I. 24	M	7 days	1.5 × 7	0 day 4 days 7 days	+	+	##	+	-	-	poor	Judged as poor as pus remained abundant, though gonococci decreased remarkably. Effective with TC afterwards.
2	Y. 24	M	13 days	1.5 × 6	0 day 2 days 4 days	+	+	##	+	+	+	excellent	
3	Y. 26	M	unknown	1.5 × 2 1.5 × 2	0 day 6 days	+	-	##	+	-	-	good	Not visited hospital after 1.5g × 2 days treatment. Relapsed for the term? Visited hospital on 6th day, and retreated by 1.5g × 2 days. Symptom disappeared on 10th day.
4	T. 24	M	10 days	1.0 × 3	0 day 3 days	+	-	##	-	-	-	excellent	
5	I. 30	M	7 days	1.0 × 6	0 day 4 days	-	+	##	+	+	##	excellent	
6	M. 39	M	2 months	1.0 × 9	0 day 1 day 4 days 7 days 16 days	-	-	##	+	-	-	excellent	Relapsed on 4th week, after treated before 1 month. No relapse observed within 16 days.
7	H. 23	M	unknown	1.0 × 5	0 day 6 days	-	+	##	+	+	##	good	Epithelium(##) and pus (+) remained. No complication.
8	S. 24	M	3 days	1.0 × 6	0 day 3 days 7 days	-	+	##	+	-	-	good	<i>ditto</i>
9	N. 25	M	7 days	1.0 × 3	0 day 3 days	-	+	##	+	-	-	good	Gonorrhoea before 1 year, and relapsed before 2 months. Relapsed since 1 week this time.
10	H. 43	M	6 days	1.0 × 6	0 day 1 day 3 days 5 days 8 days	+	-	##	+	-	+	poor	Pus not improved, though gonococci disappeared. Signs of recurrence.
11	Y. 30	M	1 month	0.75 × 3	0 day 3 days	-	+	##	-	-	-	excellent	
12	M. 24	M	3 days	0.75 × 3	0 day 3 days	+	+	##	+	-	##	excellent	Pain of urethra (nervous). No relapsed thereafter, though pus (+) remained, and judged as remarkably effective.

續からみて0.5g/日でも著効例を得ているが、また無効例もみられる。無効例といえども淋菌の消失は早い。ただ膿汁廿以上の所見が治療開始後3日以降にも認められることは、治療効果が不充分とみなしても許されると思う。膿汁の完全消失は望ましい結果であるが、この所見が±あるいは+という僅少量が存在することは、尿道炎患者の治療期にしばしば経験することで慎重な取り扱いが必要である。いずれにしても淋菌の消失は0.5g/日でも容易に認めるので、淋菌自体にはこの用量で有効といえるかもしれないが、尿道炎所見を急速に改善するまでには0.75g/日用量のほうが安全であるといえるし、自験例からみてその治療期間は3～5日間の投与期間と7日間の観察期間が必要である。

以上、本剤の淋菌性尿道炎に対する投与量の点からみた治療効果を述べ、本剤が0.75g/日、5日間の治療と7日間の観察が必要であることを述べた。

参 考 文 献

- 1) SUTHERLAND, R. & G. N. ROLINSON: α -Amino-*p*-hydroxybenzylpenicillin (BRL 2333), a new semisynthetic penicillin: *In vitro* evaluation. *Antimicrobial Agents & Chemotherapy*-1970: 411~415, 1971
- 2) GORDON, R. C.; C. REGAMEY & W. M. M. KIRBY: Comparative clinical pharmacology of amoxycillin and ampicillin administered orally. *Antimicrobial Agents & Chemotherapy*-1972: 504~507, 1973
- 3) CROYDON, E. A. P. & R. SUTHERLAND: α -Amino-*p*-hydroxybenzylpenicillin (BRL 2333), a new semisynthetic penicillin: Absorption and excretion in man. *Antimicrobial Agents & Chemotherapy*-1970: 427~430, 1971
- 4) NEU, H. C. & E. B. WINSHELL: Pharmacological studies of 6 [D (-) α -amino-*p*-hydroxyphenylacetamido] penicillanic acid in humans. *Antimicrobial Agents & Chemotherapy*-1970: 423~426, 1971

EFFECTIVENESS OF AMOXYCILLIN THERAPY ON ACUTE GONORRHEAL URETHRITIS

KANICHI EMOTO

Department of Urology, Hamanomachi Hospital

SHINJI URABE

Dr.. Urabe's Office

Amoxycillin was orally given to 27 patients with gonorrhoeal urethritis.

The daily dose was initially 1.5g, but was reduced gradually through 1.0g to 0.75g or to 0.5g in the light of the high serum level which is twice that of ampicillin.

Satisfactory therapeutic results were obtained in 2 of the 3 patients who were given 1.5g, 6 of the 7 who were given 1g, 9 of the 12 who received 0.75g. and 3 of the 5 receiving 0.5g.

The results of the present study suggest that patients with this disease should preferably be treated with 0.75g rather than 0.5g of this antibiotic for 3 to 5 days and observed for 7 days to ensure prompt relief from urethritic symptoms.